

令和6年度 関東農政局補助事業評価委員会（再評価・事後評価）
技術検討会（第2回） 議事録

開催日 令和6年12月27日（金） 14:00～15:55
場所 さいたま新都心合同庁舎2号館11階 関東農政局防災対策室1・2

[技術検討会の議事概要]

【議事】

長坂委員長) それでは、議事次第に従いまして、議事を進めます。
まず、「(1) 再評価地区について」でございますが、事務局より説明をお願いします。

(1) 再評価地区について

事務局) 今回は、事前に提出いただいたご意見に対する回答を地区ごとに説明いたします。それでは再評価14地区について担当から一括して説明いたします。地区数が多いことから数地区ごとに区切りご説明させていただきます。

関東農政局) 農業競争力強化農地整備事業 幸江崎地区、夷隅川I期地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長) ありがとうございます。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

各委員) 意見なし。

長坂委員長) ご意見ないようでしたら、次の地区の説明をお願いします。

関東農政局) 水利施設等保全高度化事業 本郷高野地区、両総茂原南地区、両総多古支線地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長) ありがとうございます。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

各委員) 意見なし。

長坂委員長) ご意見ないようでしたら、次の地区の説明をお願いします。

関東農政局) 水利施設等保全高度化事業 北総中央I期地区、西浦みかん足保久料地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省）。

長坂委員長) ありがとうございます。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

長坂委員長) 北総中央I期の第2調整池では、用地買収が難航していることから再度調整することだったが、これは検討の結果、排水量として調整

池は必要ないであろうということで縮小するというイメージでしょうか。

関東農政局) どうしても買収できない土地もございますので、そこについては例えば調整池の深さを深めにとる等の調整をして、できるだけ容量は変えないような工夫をして進めていくような検討をしていることです。

長坂委員長) ありがとうございます。その他、よろしいでしょうか。それでは次の地区の説明をお願いします。

関東農政局) 農村地域防災減災事業 新郷地区、小貝東部地区、島中領地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長) ありがとうございました。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

各 委 員) 意見なし。

長坂委員長) ご意見ないようでしたら、次の地区の説明をお願いします。

関東農政局) 農村地域防災減災事業 権現堂地区、曾我別所地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長) ありがとうございました。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

各 委 員) 意見なし。

長坂委員長) ご意見ないようでしたら、次の地区の説明をお願いします。

関東農政局) 農村地域防災減災事業 鬼柳地区、飯島地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長) ありがとうございました。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

各 委 員) 意見なし。

長坂委員長) これで再評価地区についてのご説明は終了ということで、議事の2つ目、「(2) 事後評価地区について」でございます。説明をお願いします。

(2) 事後評価地区について

関東農政局) 農業競争力強化基盤整備事業 益子西部地区及び御勅使川沿岸地区について、資料に基づき回答内容を説明（説明内容は記載省略）。

長坂委員長) ありがとうございました。それではただいまの説明について各委員、更にご意見等ありましたらお願いします。

各 委 員) 意見なし。

長坂委員長) 最後になにか全体を通してご意見がありましたらお願いします。

大澤委員) 北総中央 I 期地区の説明の中で、畑地かんがいの利用率を高めるために、農業生産法人等を誘致するマッチングを積極的にやっていると

いう取組が紹介されていたが、こういったマッチングは今まさに精力的に行われているような取組なんではないでしょうか。

例えば育苗はビジネスとしても用水を多く使用するとともに、生産物の需要も高いことから新たなビジネスチャンスかと思われれます。

関東農政局) 畑かん地区において、これまでは新規参入者を受け入れしにくいという状況はありましたが、一方で担い手の高齢化が急速に進行し、今後5～10年の間で多くの方が離農する見込みもあり、地域も段々に変化してきている状況もあります。

また、今年度中に地域計画を作成する政策の動きもあり、地域の担い手確保について議論される機会が増えている状況もあるので、これを契機に、畑地かんがい地区と新規参入のマッチングを始めようということで、関東農政局と関係する各県が相談をしながら今年度からイベントを開催したところです。

今回イベントを開催したことで見えてきた課題もあります。例えば、農業参入フォーラムに行った際には、ガス会社やホームセンター業者といった異業種が農業に参入したいが、どこが相談窓口となってくれるのか分からないという意見があったので、こういった異業種からの参入促進にフォーカスしてマッチングを進めるのも一つの方法なのかもしれないと感じるとともに、イベントに参加していただく農業法人・企業を集めるにはどんなツールを使えばいいのかといった様々な課題が見えてきているので、来年度以降もこういった取組を発展させるべく色々と検討して進めていきたいと考えています。

大澤委員) 農政局と県が畑かん整備事業を実施している、または実施した地区を対象に、農業用水の利用向上を目指して外部からの企業参入等を促進しているのは非常によい試みなので、どんどん積極的にやっていただきたいと思います。

長坂委員長) 他にご質問はございますでしょうか。

各委員) 意見なし。

長坂委員長) それでは以上で本日の質疑を終わりますが、他に追加の質問・意見等がありましたら1月8日を目途に事務局へ連絡していただきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

それでは事務局に進行をお返しします。

事務局) 長時間にわたるご議論、ありがとうございました。

次回、第3回技術検討ということで、既にご案内しているとおり、1月17日を予定しておりますのでよろしくお願いいたします。

また、本日の議事概要と議事録につきましては、後日、委員の皆様方にご確認いただき、HPにて公表させていただきますのでよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、令和6年度関東農政局補助事業評価（再評価・

事後評価) 第2回技術検討会を閉会いたします。
本日は、大変ありがとうございました。

以上